

自ら学び続ける教職員研修支援事業 活動報告書

学校名 岐阜城北高等学校

テーマ A I 活用で叶える未来の学校デザイン
～生成A I の活用による授業改善・校務軽減～

取組のポイント・成果

〔取組の内容とポイント〕

- 6月 ワークショップ① (活動の目的、時期、方法等を共有)
A I 教育カレッジ代表 大西陽介氏による研修会①
「生成A I の活用による授業改善・校務軽減のヒント」
- 7月 ワークショップ② (研修会①の振り返り)
- 9月 A I 教育カレッジ代表 大西陽介氏による研修会②
「生成A I の活用による授業改善・校務軽減の実践例」
- 10月 ワークショップ③ (活用実践交流①)
- 11月 ワークショップ④ (活用実践交流②)
- 1月 全職員対象の研修を実施 ※県費(管理費)
A I 教育カレッジ代表 大西陽介氏によるA I 研修会
「Microsoft Copilot 研修 ～業務改善から授業革新へ～」

〔成果〕

講師研修では、3つのテーマを段階的に学び、基礎から応用まで体系的に理解を深めることができた。特に、教材作成や資料作成、文書の要約など、日常的な校務に直結する活用方法を身に付けたことで、教員がA I を業務改善の手段として捉える意識が広がった。

ワークショップでは、研修内容の振り返りや教職員同士の実践共有を行い、教科や役割を超えた協働が促進された。授業面では、問いづくり、文章要約、振り返りの分析、探究活動の情報整理など、A I を学習支援に生かす実践が見られ、生徒の主体的な学びを高める有効性について理解が深まった。校務面でも、会議資料や通信文の素案作成、データ整理などにA I を活用する場面がみられ、限られた時間の中で本来業務に集中できる環境づくりが進んだ。

これらの取組により、教職員のA I 活用に対する意識は大きく前進し、「業務改善」と「授業改善」の両面でA I を活用する共通理解が形成された。本校が目指す「A I と共に創る未来の学校デザイン」に向けた土台が構築されつつあるといえる。

今後の課題

本研修を通して教職員のA I 活用は進展したが、活用の深まりには個々のスキル差が依然として課題として残る。特に、授業改善への具体的な落とし込みや、生徒への指導方法に関する共通理解の強化が求められる。また、著作権・情報モラル・データ取扱いなど、安全なA I 活用に関する校内ルールの整理も必要である。今後は、各教科での実践を蓄積し、研修内容を校内研修や分掌会議で還元する仕組みを整えることで、学校全体でA I を活用する文化を定着させたい。さらに、生成A I を学習支援に生かす授業デザインの研究を継続し、「業務改善」と「授業改善」の両面で持続的に発展させる必要がある。